

1日駅長になって相馬の食をPR もえあず米プロジェクト



「もえあず米プロジェクト」収穫報告・コラボメニュー発表会は10月12日、道の駅そうまで開催され、大食いアイドルのもえのあずきさん（通称もえあず）が訪れました。当日は、もえのさんと道の駅そうまの「キッチンにつき」とのコラボメニュー「大にぎりセット」が発表されました。また、もえのさんが道の駅そうまの1日駅長としてレジに立ちました。

食と音楽の祭典SOMA音フェス &SOMA逸品カレーコンテスト

SOMA音フェス2024

とSOMA逸品カレーコンテスト2024は10月27日、クロスロード田町・馬陵通りで開催され、多くの市民らが訪れました。

当日は、音楽ステージのほか、相馬牛や相馬産のホッキサトイモなどを使用したカレー販売ブースが並びました。

訪れた市民らは、音楽を楽しみながら、相馬産の食材が使われたカレーに舌鼓を打つなど、楽しいひとときを過ご



していました。

大勢の市民でにぎわうそうま市民まつり



第24回そうま市民まつりは10月27日、市民のひろばをメイン会場に開かれ、秋晴れの中、多くの市民でにぎわいました。

市民のひろばでは、恒例の姉妹都市北海道大樹町や特産品相互取扱協定を締結している大阪府泉佐野市の物産展などのテントが軒を連ねました。また、結婚記念樹贈呈や子ども神輿などのイベントが行われたほか、ステージイベントとして相馬高校吹奏楽部の演奏などが次々に披露され、訪れた市民を楽しませました。

競技で交流 高齢者スポーツ大会

第41回市高齢者スポーツ大会は10月18日、スポーツアリーナそうま第一体育館で開催され、各地区の老人クラブで編成された12チーム215人の選手が参加しました。

当日は、山上チームの星保武さんと岡富夫さんが力強く選手宣誓しました。

選手らは、ステイックで球を打ち、得点穴に打ち入れるスカットボールやポッチャなど5種類の多彩な競技で熱戦を繰り広げました。



みなとを核ににぎわい創出 みなとオアシスそうま港登録

みなとオアシスそうま港登録証交付式は10月20日、相馬復興市民市場「浜の駅松川浦」で開催され、関係者約30人が出席しました。

相馬港では、浜の駅松川浦が代表施設となり、そのほか4施設がみなとオアシスに登録されました。

当日は、立谷市長と新地町の岡崎利光副町長に登録証が交付され、浜の駅松川浦の山田豊店長にみなとオアシスのぼり旗が手渡されました。



看護の道への決意新たに 相馬看護専門学校戴帽式



相馬看護専門学校戴帽式は10月10日、同校体育館で行われ、24期生39人が看護師としての新たな一歩を踏み出しました。

戴帽生らは、ナースキャップを被せてもらうと、ナイチンゲール像のキャンドルから自分のキャンドルに火を灯し、全員でナイチンゲール誓詞を唱和しました。また、戴帽生代表の小林花蓮さんが誓いのことばを述べました。

惜しくもベスト4に届かず 市町村対抗ソフトボール大会

第11回市町村対抗福島県ソフトボール大会において相馬市チームは10月13日、3回戦と準々決勝を戦いました。

3回戦は前回王者の伊達市チームと対戦し、7対3で勝利しました。

準々決勝は小野町チームと対戦し、3対7で敗退、相馬市チームはベスト4進出を逃しました。

来年は相馬市チームがベスト4以上の成績を残せるよう、皆さんの応援をお願いします。



相馬の芸能大集 合第38回市芸能大会



第38回市芸能大会は10月13日、市民会館で開かれ、約500人の市民らが訪れました。

市文化団体連絡協議会が主催し、市教育委員会の共催。

開会式で、荒秀一同会会長と松本巻子市芸能大会実行委員長があいさつし、福地憲司教育長などが祝辞を述べました。

相馬民謡、日本舞踊、フラダンス、太極拳など11団体が日ごろの練習の成果を披露し、訪れた市民らは大きな拍手を送っていました。

スポーツで地元を元気に相馬市長 杯ビーチバレーボール相馬大会

相馬市長杯ジャパンビーチバレーボールツアー2024サテライト相馬大会は10月26日、尾浜ビーチバレーボール場で開催され、県外などから約80人が出場しました。

オープニングセレモニーでは、立谷市長が「ぜひ市長杯を持ち帰っていただきたい」とあいさつしました。同大会優勝チームには、今年から相馬市長杯が贈られます。

参加者らは、声を掛け合いながら熱戦を繰り広げました。



自然を感じて歩くみちのく潮風トレイル withポケモンローカルActs

みちのく潮風トレイルin相馬withポケモンローカルActsは11月3日、市民会館をスタート地点に開催され、約380人がウォーキングを楽しみました。

当日は、開会式が行われた後、長距離と短距離のコースに分かれて市内を歩きました。参加者らは、宇多郷騎馬会やポケモンに見送られて元気に出発し、相馬の豊かな自然を楽しみました。

やな場でサケ漁開始



宇多川鮭増殖組合

宇多川鮭増殖組合によるサケやな漁は10月30日、同組合が宇多川下流に設けたやな場で開始されました。

当日は、組合員らが仕掛け周辺のサケを網に追い込み、次々と引き上げました。水揚げされたサケは20匹で、オスとメスに分類された後、ふ化場に運搬されました。同組合によるサケのやな漁は12月20日ごろまで実施の予定です。

新たな名産品をたたえる

調味料選手権受賞報告

第15回調味料選手権2024受賞報告は11月7日、市役所で行われ、株式会社マルリフーズの稲村利公代表取締役と阿部純也営業部長が立谷市長に報告しました。

全国の調味料からナンパードンを決める同選手権で、同社の「ピリ辛松川浦かけるあおさ」が総合2位、ご当地部門で最優秀賞を受賞するなど高い評価を受けました。

報告を受けた立谷市長は、受賞をたたえました。



育てる喜び学ぶ 中央公民館「野菜作り体験教室」



中央公民館のこども教室「野菜づくり体験教室」は10月20日、市内の農地を活用して開催され、市内の小学生15人が参加しました。同教室は、農業や食物について学ぶ機会とすることを目的に開催。

当日は、6月に児童らが植えた苗から育った大きなサツマイモを次々に掘り起こしました。

参加した児童らは、農作業の大変さや達成感を味わいながら、楽しい時間を過ごしていました。

東北各地のいも煮を作ろう

山上小さいも煮会

山上小学校「いも煮会（しおてタイム）」は10月30日、同校で開催され、児童23人と保護者らが参加しました。当日は、児童が育てたサトイモ「相馬土垂とだれ」を使用し、福島県、山形県、岩手県の3県4種類のレシピでいも煮を作り、立谷市長や地域の方などの招待客に振る舞いました。児童らは、お代わりして自ら作ったいも煮をおいしそうに食べていました。



ミツバチについて学ぼう

BEE SCHOOL

ミツバチの学校「BEE SCHOOL」は11月2日、LVMH子どもアート・メゾンで開催され、市内の小学生など18人が参加しました。

同イベントは、NPO法人銀座ミツバチプロジェクト、LVMHグループが主催。

当日は、ミツバチに関する講義の後、ミツバチや巣箱を観察したほか、蜜蝋キャンドルの製作などを行いました。

参加者らは、ミツバチの世界を熱心に学んでいました。

地域の安全のために

市消防秋季検閲式

市消防秋季検閲式は10月13日、長友グラウンドで開かれ、消防団員と女性消防隊など約280人が参加しました。

同式は、消防団員らの団結と士気を高めることや規律の確認を目的に実施。

当日は、鎌田重昭消防団長と立谷市長が訓示しました。団員らは、真剣な面持ちで式に臨み、予防消防の重要性を共有するとともに、防災への士気を高めていました。



火災から命を守る

日立木小防災訓練

日立木小学校の防災訓練は10月15日、同校で行われ、全校児童83人を対象に行われました。

訓練は、給食室の火災を想定し、市内小・中学校防災担当教諭の研修と併せて実施。

児童らは、教職員の手指示に従って避難場所へ移動したほか、煙体験で煙が充満した環境の危険性を学びました。

また、防災担当教諭らは、訓練の成果などの協議や実技研修を行い、自校の防災教育



に生かすこととしていました。

安心に暮らせる 社会を市交通安全 全総ぐるみ大会



第58回市交通安全全総ぐるみ大会は10月31日、市民会館で開催され、約200人の市民らが参加しました。

当日は、交通安全功労者などの表彰が行われました。次に、みどり幼稚園園児による交通安全の誓いや、飯豊小学校6年の青田瑠那さん、伊東通夫相馬市老人クラブ連合会会長から交通安全についての提言がありました。

最後に、交通事故の根絶に向けてまい進する「大会宣言」を採択し、交通安全への決意を新たにしました。

元気に「火の用心」

園児たちが防火パレード

秋季全国火災予防運動防火パレードは11月8日、新町緑地をスタート地点に開催され、消防関係機関や幼稚園、保育園の園児ら約240人が参加し火災予防を呼び掛けました。

当日は、相馬保育園、みなと保育園、みどり幼稚園の園児らが園ごとに隊列を組んで、市民会館まで火災予防を呼びかけながら鼓笛パレードを行いました。

園児らは、秋晴れの空に元気な演奏を響かせていました。



活動の成果を発表 中一中研究発表会

中村第一中学校「総合的な学習の時間」研究発表会は11月8日、同校体育会で行われ、全校生徒および保護者ら470人が参加しました。

当日は、各学年の代表生徒が、市の防災や産業などをテーマに学習の成果を発表したほか、質疑応答などを通して、ほかの生徒らからのフィードバックを受けました。生徒らは、発表会を通して新たな知識や考え方を発見するなど学びを深めていました。



全国大会での活躍願う スポーツ大会出場報告

▽陸上競技



スポーツ大会出場報告は10月10日、市役所で行われ、全国大会に出場する小野田美咲選手（中一中3年）が訪れました。

小野田選手は、8月に開催されたJOCジュニアオリンピックカップ第55回U16陸上競技大会県予選大会女子1、000メートルで優勝し、10月に三重県伊勢市で開催の全国大会に出場。報告を受けた福地憲司教育長は小野田選手を激励し、奨励金を手渡しました。

▽スポーツウエ ルネス吹矢

スポーツ大会出場報告は11月8日、市役所で行われ、全国大会に出場する藤澤範子選手、青田治子選手、菅原利宗選手、伊東充幸選手の4人が訪れました。

選手らは、関係団体からの推薦を受け、11月12日に東京都で開催の第13回全日本スポーツウエルネス吹矢選手権大会に出場。

報告を受けた立谷市長は選手らを激励し、奨励金を手渡しました。



全国大会出場を 報告 相馬総合高 校吹奏楽部



市芸術文化奨励金交付式は10月25日、市役所で行われ、相馬総合高等学校吹奏楽部の渡邊芽衣部長が福地憲司教育長に全国大会出場を報告しました。

同校吹奏楽部は、音源審査を通過し、11月10日に東京都で行われた第30回日本管楽合奏コンテスト全国大会の高校生S部門に出場しました。

当日は、渡邊さんが「良い成績を目指してがんばります」と大会への抱負を述べると、福地教育長は、活躍を期待して奨励金を手渡しました。

全国大会で「中一小サウンド」を 響かせる 中一小器楽部

中村第一小学校器楽部による全国大会出場報告は11月7日、市役所で行われ、同部員19人が立谷市長に出場を報告しました。

同部は、日本学校合奏コンクール2024ソロ&アンサンブルコンテストの録音審査の結果、全国大会の出場資格を獲得。

報告を受けた立谷市長は「大舞台で演奏してきてください」と述べ、児童らを激励しました。



音楽を楽しもう

相馬・新地地区小・中学校音楽祭

第64回相馬・新地地区小・中学校音楽祭は11月6日、市民会館で開かれ、両地区16校の児童・生徒が参加しました。当日は、吹奏楽部や器楽部がある学校が演奏を披露した後、来場した両地区の小学校5年生の児童と中学校・高校の吹奏楽部の生徒ら全員で合奏や合唱を行いました。

参加者らは、手拍子しながら演奏を聞くなど、音楽を楽しむ時間を過ごしました。



放課後子ども教室 ハロウィーンイベント

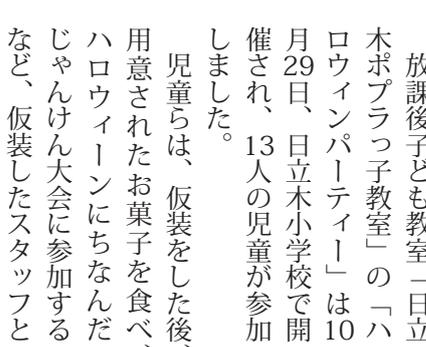
将来を担う子どもたちを地域全体で育成することなどを目的に、放課後の居場所づくりとして、「放課後子ども教室」を市内の全小学校の児童を対象に実施しています。

▽おおのつくし んぼ教室



おおのつくしんぼ教室の「あそぼうハロウィン」は10月24日、大野小学校で開催され、15人の児童が参加しました。
児童らは、思い思いの顔を描いたイラストを使って仮装をしたり、オレンジ色の大きなナイロン袋に新聞紙を詰めてカボチャを作るなど、ハロウィーンの雰囲気を楽しんでいました。

▽日立木 ポプラっ子教室



放課後子ども教室「日立木ポプラっ子教室」の「ハロウィンパーティー」は10月29日、日立木小学校で開催され、13人の児童が参加しました。
児童らは、仮装をした後、用意されたお菓子を食べ、ハロウィーンにちなんだじゃんけん大会に参加するなど、仮装したスタッフと楽しそうに遊んでいました。

▽さくら子ども 教室



放課後子ども教室「さくら子ども教室」の「ハロウィンパーティー」は10月30日、桜丘小学校で開催され、55人の児童が参加しました。
児童らは、あみだくじによるプレゼント抽選のほか、この日のために手作りしたカボチャの形の容器でお菓子を受け取るなど、ハロウィーンを楽しく過ごしました。

外国人ボランティアと楽しむ 英語でハロウィーン祭り

英語でハロウィーン祭りは10月19日、尾浜こども公園で開催され、親子や外国人ボランティアから約40人が参加しました。

同イベントは、NPO法人相馬国際交流の会が主催。
当日は、お菓子配りやコスチュームコンテストなどが行われました。
子どもたちは、外国人ボランティアに英語で話しかけるなど、楽しく交流しました。



安全性の高い食べ物について考えよう 収穫祭にいらっしやい!

「収穫祭にいらっしやい!」は11月10日、尾浜地内にある市民農園「きつちんがーでん・ハニカム」で開催され、多くの家族連れなどが訪れました。

NPO法人フー太郎の森基金の主催で、安全性の高い食べ物について考えてもらうことなどを目的に開催。

会場では、農業体験などが行われ、子どもたちはサツマイモなどの収穫を通して食の大切さを学んでいました。